

第23回 ベに花杯選抜少年野球大会

特別規則

- 1 ベンチは組み合わせ番号の若いチームを一塁側ベンチとする。
- 2 試合開始予定時間になっても会場に(9名揃わない)来ないチームは棄権したものとみなす。
- 3 試合形式はトーナメント方式とし、試合は7回までとする。
- 4 試合の所要時間は1時間30分*とし、これを超えて新しいイニングに入らない。(但し、審判の指示した給水時間や雨天中断等は試合時間に入れない)
*裏(後攻)の攻撃が終了した時点で1時間20分を経過していた場合は、その時点で試合終了とする。
- 5 3回終了時で12点以上、5回終了時以降は7点差以上でコールドゲームとする。
- 6 暗黒、降雨、その他審判によって試合打ち切り宣言された場合(コールドゲーム)は、3回終了で成立(同点の場合は抽選)、それ以前については再試合とする。
- 7 試合は、1時間30分を過ぎても同点の時は全員(最後に試合に出場していた選手)の抽選により勝敗を決める。但し、時間内の延長は認める。
- 8 準決勝及び決勝戦は、7回終了又は1時間30分(延長含む)過ぎても同点の場合タイブレーク(特別延長戦)によって勝敗を決める。タイブレークは下記の方法で行なう。
 1. 継続打者とし、終了時の最終打者を一塁走者として2塁3塁は順次前の打者とする。
すなわち無死満塁の状態が決着するまで行なう。(先攻後攻は試合開始時と同じとする)
 2. タイブレークは1時間30分経過後でも実施する。
 3. タイブレークは代打、代走及び守備交代は認める。
- 9 一度退いた選手のベースコーチは認める。
- 10 塁間は23mとし、投手板と本塁間は16mとする。
- 11 本塁から左右翼70mを取り、マウンドを起点に70m地点の右翼と左翼を結ぶ。但し、グラウンドに応じたホームランラインを設定する場合もある。
- 12 捕手はマスク・プロテクター・ヘルメット及びファールカップを着用しなければならない。
(控えの捕手も投手の投球を受ける時は防具を着用する。)
- 13 使用球は、公認ケンコーボールJ球とし主催者で用意する。
- 14 鉄製スパイクは、使用禁止とする。(学童用のゴムスパイクは可)
- 15 ベンチ入り登録指導者(4名)は、選手と統一されたユニフォーム・帽子を着用のこと。
(但し、代表、スコアラーは帽子のみでも良い)さらに背番号は、監督30番、コーチ29番以下、主将10番、その他については、0番または1番から順につけること。(最大20番までとする)
- 16 ヘルメットはイヤーフラッグ付きを着用のこと。1チーム8個以上準備し走者(ベースコーチ)も着用する。
- 17 金属バットは、JSBB印の公認バットを使用のこと。
- 18 試合中のファールボールは落下地点サイドのベンチで拾い速やかにボールボーイ(大人)に届ける。

- 19 シートノックは5分間とする。ただし大会運営上時間短縮等でシートノックなしで試合を開始することがある。
- 20 1日の投球数を1人につき70球までとする。但し、70球に達した場合、その打者の攻撃が完了するまでは投げられる。
- 21 手袋の着用は認めるが、色は白や黒が望ましい。
- 22 試合中の選手の素振りを禁止する。
- 23 熱中症対策として保護者2名のベンチ入りを可とする。（ただし応援は不可）
- 24 ベースは固定ベースとする。

【審判上の注意事項】

- 1 試合は、スピーディに行い、無駄な時間は絶対に避けること。
* サインを見る際にバッターボックスを外さないことで試合進行を早める。
- 2 攻守交代は敏速に行なう。
- 3 投球練習数は、1回目と投手交代の時は7球以内（但し1分以内）とし2回目以降は3球。
- 4 タイムはプレーヤーの要求した時ではなく、審判が認めた時である。
- 5 球場内外を問わずマナーに留意し、少年野球選手として立派な態度をとること。
- 6 相手選手をけなす野次は絶対に飛ばさぬよう留意し、父兄からの野次等の無い様各チームの指導者は注意すること。
- 7 野球ルールの解釈決定は各審判が行なうが、事態が紛争した時の最終決定は四氏審判で行う。
尚、今大会の基本的ルールの解釈は、2021年公認野球規則と全日本軟式野球連盟に定めた少年野球に関する事項、及び埼玉県スポーツ少年団軟式野球運営細領による。